
会社説明資料

－ 2025年3月期 －

2025年6月

株式会社 **じもとホールディングス**

株式会社 **きらやか銀行** 株式会社 **仙台銀行**

目次

1. トップメッセージ・トピックス

トップメッセージ	… 1
トピックス	… 5

2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿	… 7
② 中小企業支援の深化	… 9
③ 業務変革（DX）	… 10
④ 経営管理	… 11
⑤ SBIグループとの主な連携状況	… 12
⑥ 経営再建と信頼回復に向けた取り組み （きらやか銀行）	… 13

3. じもとグループのサステナビリティ

① サステナビリティ基本方針	… 14
② サステナビリティ投融資方針	… 15
③ 中小企業支援を通じたサステナビリティ	… 16
④ 主要課題への取り組み	… 17
⑤ 人事戦略、投資	… 19

4. 2025年3月期 グループ決算の状況

① 決算の概要	… 23
② 資金利益	… 24
③ 貸出金・預金	… 25
④ 有価証券	… 26
⑤ 役務取引等利益	… 27
⑥ 経費、経営効率化	… 28
⑦ 与信関係費用、金融再生法開示債権	… 29
⑧ 自己資本比率、ROE	… 30
⑨ 中期経営計画目標と実績	… 31
⑩ 2026年3月期 業績予想と配当予想	… 32

1. トップメッセージ 宮城・山形の地域経済と中小企業への貢献



代表取締役社長 坂爪敏雄 代表取締役会長 西塚英樹



じもとグループ主要施策

中小企業支援の深化

業務変革 (DX)

経営管理

SBIグループ連携

【黒字決算への回復、復配】

日頃より当社じもとグループに対するご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

2024年3月期の多額の赤字決算と無配、それに伴う国の議決権発生、さらには、きらやか銀行の公的資金返済の延長にあたりましては、皆様方に、大変なご心配とご迷惑をおかけしました。

2025年3月期の当社グループの業績につきましては、きらやか銀行が与信関係費用と有価証券関連損失が大幅に減少し5億円の黒字決算に回復したことなどから、**当社グループの連結当期純利益も15億円とする黒字決算**となりました。

これに伴いまして、2025年6月19日開催の定時株主総会では、普通株式及び優先株式について、復配とする議案を株主様にお諮りすることになりました。

【じもとグループ主要施策】

当社グループは、2024年度において、「宮城と山形をつなぎ、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」経営理念のもと、SBIグループとの連携を積極的に活用して、「中小企業支援の深化」、「業務変革（DX）」、「経営管理」に取り組んでまいりました。

また、日本銀行が、政策金利の引き上げを2回にわたり実施したことから、金利のある世界が復活し、当社グループも迅速に対応してまいりました。

1. トップメッセージ 宮城・山形の地域経済と中小企業への貢献



◆中小企業支援の深化

きらやか銀行では、本部の審査担当者が取引先に直接訪問し、経営状況や課題を的確に把握するなど、事業支援に取り組んでまいりました。

仙台銀行では、お取引先のニーズに応じたオーダーメイド融資をスピーディに実施することで、経営支援を強化してまいりました。

SBIグループが宮城県で計画していた半導体工場建設は、残念ながら白紙となりました。当社グループは、引き続き、SBIグループと連携し、地域産業の振興に取り組んでまいります。

◆業務変革（DX）

当社グループの業績回復に向けて、効率化、店舗戦略、人員戦略の一体改革をさらに推進いたしました。

きらやか銀行のインターネット支店については、SBIグループのノウハウを導入してリニューアルし、一層のサービス向上に取り組んでおります。

◆経営管理

信用リスクや有価証券運用などの課題について、子銀行への経営管理、経営指導をさらに強化し、抜本的な改革を進めております。

きらやか銀行では、仙台銀行の元審査担当役員に加え、金融庁やSBI新生銀行からも人材を招き、経営管理の見直しと再構築を進めました。

1. トップメッセージ 宮城・山形の地域経済と中小企業への貢献



きらやか銀行 経営再建

2024年3月期 過去最大の赤字

公的資金200億円 返済期日延長

経営陣を一新 経営再建へ
(黒字回復)

【対処すべき経営課題】

きらやか銀行の経営再建

きらやか銀行は、昨年、2024年3月期において、多額の与信関係費用と有価証券関連損失を計上したことから、過去最大の244億円の赤字決算となりました。

また、当初2024年9月に予定していた公的資金200億円の返済については、国との協議、臨時株主総会の承認を経て、13年延長することになりました。

きらやか銀行は、この一連の経営責任を明確にするため、2024年9月に経営陣を一新し、役職員が経営再建に向けて全力で取り組んでおります。



きらやか銀行 経営再建

企業支援
審査体制 再構築

取引先訪問
徹底

組織風土改革

仙台銀行
SBIグループ

着実な経営再建 信頼回復へ

赤字決算の主因となった信用リスク管理については、企業支援やリスク管理の外部専門家、仙台銀行の審査担当役員を招き、企業支援体制や貸出審査体制の再構築を図りました。

さらには、取引先への訪問活動を徹底し、経営支援や事業整理等を的確にサポートすることで信用リスクの抑制に努めております。

また、きらやか銀行の新経営陣は、職員との面談と対話を重視し、経営再建に向けた様々な意見やアイデアを募って実践するなど、組織風土の改革を進めております。

きらやか銀行は、仙台銀行、そしてSBIグループから、全面的な支援を受けており、今後も着実な経営再建と信頼回復に取り組んでまいります。

1. トップメッセージ 宮城・山形の地域経済と中小企業への貢献



中小企業支援／公的資金

きらやか銀行
480 億円

仙 台 銀 行
300 億円

- 地元中小企業への円滑な金融支援
- 地元経済の発展への貢献

返済へ 利益剰余金積上げ

【対処すべき経営課題】

中小企業支援と公的資金返済

きらやか銀行は、震災特例の300億円、新型コロナ特例の180億円、合計480億円の公的資金を受入れております。また、仙台銀行は、震災特例の300億円を受入れており、当社グループでは総額780億円の公的資金を受入れております。

これらの公的資金は、大震災やコロナ禍で大きな影響を受けた地元中小企業や地域経済を支えるための大事な資金でございます。

当社グループは、これからも公的資金の目的である地元中小企業への円滑な金融支援に真摯に取り組み、地元経済の発展に全力で貢献してまいります。このことこそが、当社グループの地域での存在意義であり、着実に信頼回復と業績改善につなげ、公的資金の返済に向けた剰余金の積上げに努めてまいります。



次期勘定系システム

環境変化へ迅速対応

- 新たな金融サービス提供
- 業務改革をさらに進展

次期勘定系システム更新対応

金融テクノロジーの進展、地域社会の人口減少の加速など、地域金融機関を取り巻く経営環境が大きく変化しております。

こうした中、当社グループは、環境変化へ迅速に対応することを経営課題としております。

この課題に的確かつ迅速に対応するため、当社グループは、SBIグループと連携して、新たな金融サービスをスピーディに提供しております。

また、当社グループ全体の業務改革を進める観点から、今後予定しております次期勘定系システム更新に向けても対応してまいります。

1. トピックス（きらやか銀行）

金融経済教育への取り組み

- ◆SMBCコンシューマーファイナンス株式会社との協働により、山形県内の高校生を中心に金融経済教育セミナーを開催しております。

2023年11月より開始し、2024年度は山形県内の高校を中心に18回実施いたしました。



- ◆また、新たな取り組みとして山形大学が提供する地域住民を対象とした講座「エクステンションぷらすα」にて金融リテラシー講座を実施しております。今後も未来を担う学生や地域の金融リテラシー向上に向けた取り組みを通じて、地域社会の発展に貢献してまいります。

きらやか産業賞・ベンチャービジネス奨励賞の贈呈

- ◆きらやか産業賞は、技術や経営の革新・国際化・教育訓練の面で特に優れた実績を上げている県内の中小企業と団体・個人を顕彰しており、2024年度で36回目を数えます。

- ◆ベンチャービジネス奨励賞は、特に将来性があり、新技術・新製品などの研究開発を行う中小企業と関連団体・研究成果による起業を予定している個人・団体を顕彰しており、2024年度で29回目を数えます。

- ◆今後もきらやか産業賞及びベンチャービジネス奨励賞を継続し、地元産業活性化に取り組んでまいります。



きらやかSDGs寄付型ローン

- ◆当行では、取引先企業のSDGs・ESG啓蒙、啓発を通して持続可能な地域づくりに貢献するため、「きらやかSDGs寄付型ローン」を取り扱っております。
- ◆2024年5月に本商品において、2024年3月末時点の融資実行総額の0.10%相当額である50万円をやまがた社会貢献基金に寄付いたしました。

- ◆今後も様々な商品やサービスの提供を通して、お客さまとともに地域社会の発展に貢献してまいります。



一般財団法人きらやか銀行教育福祉振興基金による寄贈品の贈呈

- ◆一般財団法人きらやか銀行教育福祉振興基金（代表理事 西塚英樹 きらやか銀行取締役頭取）では、山形県交通安全協会の安全かつ効果的な活動を支援するために、当協会に対してボランティアベスト（70着）を贈呈いたしました。

- ◆1974年の設立以来、山形県内の保育施設や学校、社会福祉法人等を対象に、地域貢献活動を実施しており、当財団は今後も活動を継続して行い、地域社会に貢献してまいります。



1. トピックス（仙台銀行）

「いきいき男女・にこにこ子育て応援企業」最優秀賞受賞

◆当行は、2024年度「いきいき男女・にこにこ子育て応援企業」宮城県知事表彰において、最優秀賞を受賞しました。

◆本表彰は、宮城県において男性・女性ともに働きやすく、子育てしやすい職場づくりを進める企業を応援するもので、2018年度以来2回目の最優秀賞受賞となりました。



公益信託「仙台銀行まちづくり基金」

◆当行は、宮城県内のまちづくり等に取り組んでいる方々を応援するため、1992年の創業40周年記念事業の一環として、公益信託「仙台銀行まちづくり基金」を創設しております。

◆2024年度は地域振興やまちづくりに取り組む団体等16先に総額303万円の助成を決定いたしました。

◆今後も本基金を通じて地域活性化に向けた活動を支援してまいります。



仙台銀行ホールイズミティ21 各種コンサートへの協賛

◆地域の文化活動支援のため、仙台銀行ホールイズミティ21のコンサートシリーズ「イズミノオト」や「ロビーコンサート」に協賛しております。

◆2025年1月、施設の大規模改修後初めて開催されたロビーコンサートでは、予想を上回る大勢のお客さまにご来場いただきました。

◆今後も仙台市と連携を図りながら、地域の皆さまの文化活動へ支援を行ってまいります。



仙台銀行野球部「少年野球交流会」

◆当行野球部は、2025年2月に地元の少年野球団4チーム（約50名）との交流会を開催いたしました。

◆交流会は今回で3回目の開催となり、野球を通じて地域の子どもたちとの交流を深めました。

◆今後も未来を担う子どもたちとの交流を通じて、地域活性化に貢献してまいります。

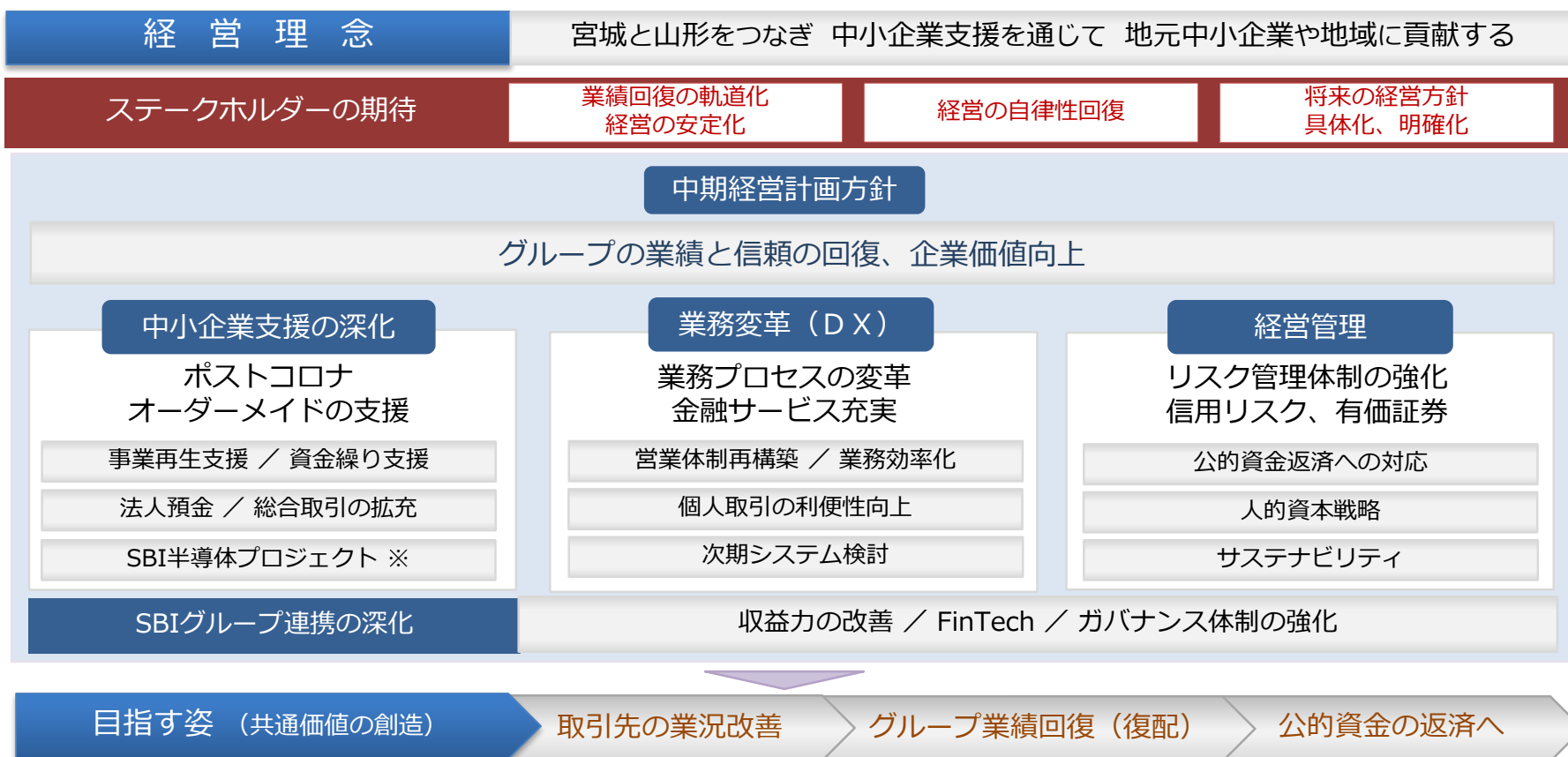


2. 中期経営計画の進捗状況

① 経営理念と目指す姿

- 当社グループの経営理念は、「宮城と山形をつなぎ、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことです。
- 中期経営計画（2024年～2026年）では、「**グループの業績と信頼の回復、企業価値向上**」を計画方針とし、「**中小企業支援の深化**」「**業務変革（DX）**」「**経営管理**」において、「**SBIグループ連携**」を深めながら、地域創生、業務変革のスピードアップ、経営管理の高度化に取り組みます。
- これらの取り組みを通じ、取引先業況の改善、グループ業績回復、公的資金返済へつなげる「**共通価値の創造**」の実現を目指していきます。

※本計画の施策に掲げております「SBI半導体プロジェクト」は、SBIHDとPSMCとの提携解消を受け、対応に変更が生じておりますが、当社グループの業績予想に影響はございません。



① 経営理念と目指す姿（PBRの現状と対応）

- 当社グループ連結純資産826億円（普通株式44億円、公的資金780億円等）は、公的資金の割合が大きく、レバレッジが高い構造となっています。
- 普通株式の純資産は、前期までの2期連続の赤字決算で目減りしたことから、PBRは計算上、同規模の地方銀行に比べて高くなっています。
- 安定収益の確保が課題。公的資金を活用した**地元企業支援、与信リスク管理**により収益力を改善し、**ROE向上を通じてPBR改善に取り組みます**。
- 併せて、SBI連携を通じて収益力の強化を進めることで、公的資金の返済を進めてまいります。

【図表】当社グループ連結純資産の構成とPBR（2025年3月期）

H D 連結純資産 826 億円		H D 普通株式分 P B R	
発行株式	株主への帰属	構成要因	2025/3
普通株式 発行済株式数 26,840千株	普通株式 44 億円	P B R	2.12
B 種優先株式 (震災特例)	優先株式 (公的資金) 780 億円	株 価 ÷ 1 株当たり純資産	354円 ÷ 166円
300 億円		R O E	0.34%
C 種優先株式 (震災特例)		1株当たり当期純利益 (優先配当控除後) ÷ 1 株当たり純資産	58円 ÷ 166円
200 億円		P E R	6.08倍
D 種優先株式 (震災特例)	2 億円	株 価 ÷ 1株当たり当期純利益 (優先配当控除後)	354円 ÷ 58円
100 億円		※ 1 株当たり純資産 純資産44億円 ÷ 26,751千株 = 166円 ※ 1 株当たり当期純利益 (当期純利益15億円 - 優先配当0.07億円) ÷ 26,745千株 = 58円 ※ 株価は3月末の終値：354円	
E 種優先株式 (コロナ特例)			
180 億円			
非支配株主持分			

連結純資産の中核部分

【連結純資産の現状】

- ・ 自己資本に占める公的資金の割合が大きく、レバレッジが高い構造。
- ・ 普通株式に帰属する純資産は、前期までの2期連続の赤字決算により目減りしている。
- ・ このため普通株式に対するPBRは、2.12倍と同規模の地方銀行に比べて高い状況。

【改善への方向性】

- ・ 安定的な収益確保が課題。
- ・ 公的資金を活用した地元企業支援、徹底した新規の与信リスク管理による信用コストの正常化を通じて収益力を改善。
- ・ ROE向上を通じて、PBRの改善を見込む。
- ・ 併せて収益力を強化し、公的資金の返済を進めてまいります。

参考：市場が着目する R O E

資本全体の収益	2025/3
R O E	1.89%
当期純利益 ÷ 自己資本 (普通株+優先株)	15億円 ÷ 824億円
◇投資家の期待水準（資本全体） 5.00% ⇒ 連結利益41億円	

② 中小企業支援の深化

- 物価金利上昇局面における適切な経営改善支援や、取引先の状況に応じたオーダーメイドの支援をスピーディーに実施しております。
- 資金繰り支援に加え、事業再生/成長支援が重要であり、震災特例・コロナ特例の公的資金受入行として、コンサル子会社と連携して経営支援を行っております。
- 電子地域通貨や企業版ふるさと納税などの活用により、地方自治体の地域再生計画を支援してまいります。
- 「SBI半導体プロジェクト」につきまして、引き続き、宮城県の半導体産業活性化に貢献すべく取組みを継続しております。

中小企業支援

物価金利上昇局面での経営改善支援

- ◆仙台地区融資推進担当者配置による仙台地区の連携強化
- ◆きらやかBMSを活用したビジネスマッチング業務の推進

オーダーメイド型融資、スピード対応による新規取引先の増加

- ◆創業支援、スタートアップ企業への取組強化
- ◆ファンドを活用した事業再生支援

仙台地区戦略

中小企業貸出平均残高

2024年度下期	5,033億円
対前年同月末比	増加 112億円
伸び率	2.3%

SBI半導体プロジェクト

- ◆宮城県への進出計画は白紙撤回
- ◆SBIグループの半導体事業展開を注視しつつ、企業誘致情報も収集し、半導体産業活性化に貢献してまいります

地方創生への貢献

電子地域通貨

電子地域通貨

＜宮城県＞
・パタPAY（大崎市）
＜山形県＞
・ベニpay（山形市）
・電子商品券事業（河北町）

企業版ふるさと納税

企業版ふるさと納税

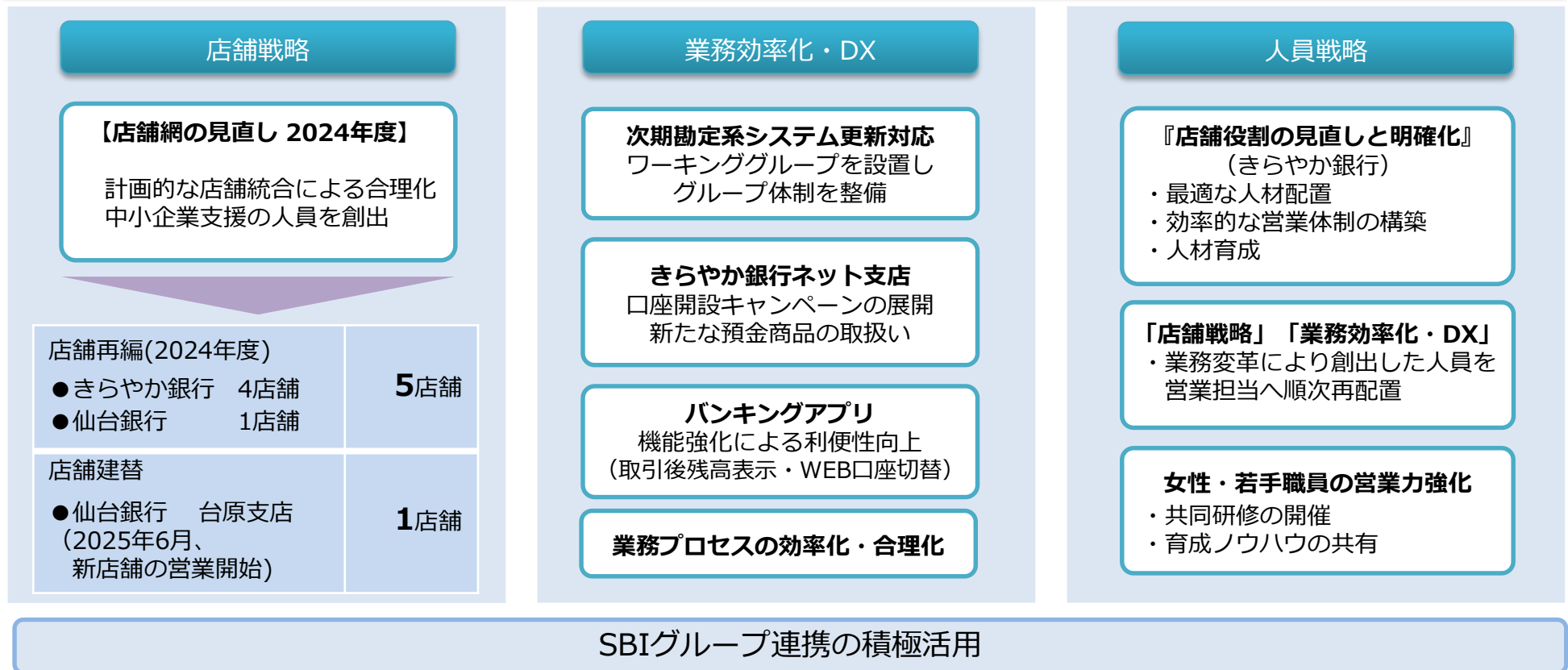
宮城県内の17自治体と提携し、地域再生計画を支援

引続き、ヒアリングや情報提供を継続し、自治体との連携拡大を目指します

③ 業務変革（DX）

- 金融テクノロジーの進展、地域社会の人口減少の加速など、取り巻く経営環境が大きく変化する中、当社グループは、環境変化への迅速な対応を経営課題としております。
- 「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で進め、経営資源を効率的に再配分し、営業体制の増強につなげております。また、SBIグループの知見やノウハウも積極活用し、新たな金融サービスの提供や業務の再構築に取り組んでおります。
- 次期勘定系システムの更新へ向け、中長期的な業務全体の改革を見据えた、グランドデザインを策定してまいります。

「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で推進



- 経営強化計画に基づく黒字決算と復配を継続維持し、株価の回復につなげるとともに、公的資金返済に向けた利益剰余金計画の達成に向けた対応を進めてまいります。
- 信用リスク管理について、与信審査管理向上に向けたグループノウハウの共有や外部知見の導入、取引先の実態把握へのHDの関与を深めるなど、グループ管理を強化・継続してまいります。
- 多様な人材が活躍できる職場環境を目指して、人事制度の見直しや運用改善を進めております。意欲と実力と成果に基づいた、能力・個性を発揮し、成長・活躍できる組織づくりを進めております。

資金政策・株価対策

経営強化計画の遂行

- ◆ 経営強化計画に基づく黒字決算と復配の継続維持
- ◆ 利益剰余金計画の達成に向けた対応

PBR・ROE改善への取組み

- ◆ 課題である安定収益の確保に向け、公的資金を活用した地元企業支援、与信リスク管理への取組み

サステナビリティ対応

- ◆ CO2排出量削減やサステナビリティ関連投融資の目標を設定、進捗状況を公表
- ◆ 女性管理職比率15%へ向けた取組み

リスク管理態勢の強化

信用リスク管理

- ◆ 取引先の的確な実態把握、HDの関与を深めてグループ管理を強化
- ◆ SBIグループから取締役1名を招へいし、さらやか銀行の管理体制を強化

有価証券リスク管理

- ◆ SBIグループとの連携による評価損改善、再投資への対応
- ◆ SBIポート以外（債券、株式、投資信託等）の投資対応

社外取締役の知見活用

- ◆ 本部職員との面談、営業店訪問を実施
- ◆ 社外取締役の知見をさらに活用し、グループ重要課題の協議を拡充

人的資本戦略

人事制度の見直し

- ◆ 多様な人材が能力・個性を発揮し、成長・活躍できる環境整備
- ◆ 組織全体のモチベーション向上

女性・若手職員の活躍推進

- ◆ 女性管理職比率15%へ向け、役席者を対象に「女性リーダー養成研修」を共催

ワーク・ライフ・バランス

- ◆ 適正な勤務時間管理の実施
- ◆ 育児休暇取得者の職場復帰支援

人権の尊重・職場改善

- ◆ 「カスタマーハラスメント対応方針」の制定
- ◆ 「ハートコンタクト運動」の実施(仙台)

⑤ SBIグループとの主な連携状況

- 当社グループは、SBIグループとの連携を積極活用し、中小企業支援、業務変革、経営管理、人材育成の各分野で提携効果を発揮しております。
- 2023年12月、SBIグループによる追加出資19億円を受入れ、全額をきらやか銀行の増資に充当いたしました。
- 2024年9月、きらやか銀行の再建に向けて、SBIグループから同行へ取締役1名が就任し、内部管理体制の強化を進めております。

SBIグループとの主な提携実績

法人戦略

- ◆無料ECサイト構築支援
- ◆電子稟議ワークフロー導入支援
- ◆事業性ローン団信取扱
- ◆DX関連オンラインセミナー開催
- ◆DXデータベース
- ◆トレーサビリティサービスの提供

地方自治体支援

- ◆地域通貨(プレミアム商品券)の電子化
- ◆企業版ふるさと納税

個人戦略

- ◆きらやか銀行ネット支店
- ◆住宅ローン団信、がん保険
- ◆銀行代理業による住宅ローン
- ◆個人版確定拠出年金
- ◆投資信託商品
- ◆投資用不動産事業に係るアパートローン
- ◆個人ローンの広域展開（きらやか）

ガバナンス

- ◆SBIより社外取締役1名が就任
※きらやか銀行取締役（非業務執行）を兼任
- ◆新たにSBIグループから、きらやか銀行へ取締役1名が就任
- ◆SBIよりオブザーバーが会議へ参加



×



コスト削減

- ◆SBI共通ATMへ全台入替
- ◆じもとHD役員賠償責任保険見直し
- ◆SBIビジネス・イノベーターのノウハウ活用

SBIマネープラザ

- ◆共同店舗運営、資産運用提案の向上
- ◆相続に係るコンサルティング業務の強化

人材トレーニー派遣

- ◆SBIネオファイナンスサービスーズ（FinTech）
- ◆SBIHD生成AI室が執り行う「SBI地域生成AI研究会」に参画

ファンド出資・融資連携

- ◆SBIインベストメント組成ファンド出資
- ◆SBI新生銀行が組成するシンジケートローンへ参加

ネット支店・バンキングアプリ

- ◆WEB定期預金・口座開設キャンペーン
- ◆機能強化による利便性の向上

⑥ 経営再建と信頼回復に向けた取り組み（きらやか銀行）

- きらやか銀行は、「**考勤改革！～意識を変える・行動を変える～**」をスローガンに掲げ、「**地元信頼され、ともに将来を創る銀行**」を目指し、役職員が一丸となって経営再建に向けて全力で取り組んでおります。
- 主要課題である**信用リスク管理**について、外部専門家や仙台銀行から人材を招き、じもとHDやSBIグループの協力を得ながら、企業支援体制や貸出審査体制の再構築を図りました。営業店では、お客さまへの訪問を徹底し、経営支援や事業整理等を的確にサポートすることで、信用リスクの抑制に努めております。
- きらやか銀行の経営陣は、職員との面談と対話を重視し、経営再建に向けた様々な意見やアイデアを募って実践するなど、組織風土の改革を進めております。
- SBIグループのノウハウを活用して、全国のお客さまを対象に、新たな預金商品やWeb完結ローンを展開するなど、お客さまの利便性を高めてまいります。

企業支援体制 企業支援の外部専門家を招へい ◆外部専門家の指導のもと、事業再生や事業整理の提案、実行サポート実践 ◆外部専門家による若手職員の財務分析、業種別審査ノウハウ研修を開催 ◆企業支援部による営業店サポート	お客さま訪問 お客さまを知るために丁寧に訪問を重ねる ◆役員を含めたお客さま訪問を拡大 ◆訪問を重ね、対話を通してお客さまのニーズを深掘りし、積極的に対応	現場重視 お客さまや営業店・本部各部の現場と対話し経営に反映させる ◆何よりも現場の対話と情報を重視 ◆常に現場の声を経営に反映
貸出審査体制 仙台銀行の審査役員を招へい ◆信用リスク管理体制強化に向けた様々なアドバイスや仙台銀行のノウハウを共有 ◆貸出審査体制の改善に寄与	意思決定のスピード化 風通しの良い職場にして意思の疎通を良くし、意思決定を迅速に行う ◆横のつながりを深める（日常の対話） ◆情報伝達方法の簡素化 ◆迅速な意思決定（方向性）	顧客基盤強化 SBIグループとの連携強化 ◆ネット支店での各種キャンペーン ◆全国のお客さまを対象とした、預金商品やWeb完結ローンの展開

ネット支店 各種キャンペーン

きらやか銀行 SBI GROUP きらやか銀行SBIさくらんぼ支店

－ 取扱商品の一例 －

金利マシマシ定期預金

お預かり総額に応じて

金利最大 **年1.5%** (税引後 (1.195%))

参加者求む!

普通預金

キャッシュプレゼントプログラム

四季のボーナス

普通預金に100万円以上のお預け入れて自動エントリー

お得な普通預金金利 **年0.30%** (さらに年最大4回のキャッシュプレゼント!!)

定期預金

きらきらさんさん

6か月定期 2年定期

年0.33% (税引き後 年0.2629%)

ご来店不要

3. じもとグループのサステナビリティ (サステナビリティ活動報告)

① サステナビリティ基本方針

- 当社グループは、2021年12月に「サステナビリティ基本方針」を制定、2022年4月に「サステナビリティ推進グループ」を設置しました。
- 持続可能な社会の実現に向けて、役員研修や支店長会議でグループ方針を周知し、中小企業支援と各主要課題に取り組んでおります。

サステナビリティ基本方針

じもとグループは、地域金融グループとして「宮城と山形をつなぎ、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域に貢献する」ことを経営理念としております。

この経営理念に基づく事業活動を通じて、取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献し、併せて、当社グループの中長期的な企業価値の向上にもつなげていく「共通価値の創造」の実現を目指してまいります。

1. じもとグループは、宮城県と山形県の地元中小企業が直面する、地域経済の縮小、人口の減少・高齢化、後継者問題などの中長期的な課題への対応、業況の改善に取り組んでまいります。
2. じもとグループは、環境問題、職員の健康・労働環境の改善や公正・適切な処遇、人権尊重、東日本大震災の被災経験等を踏まえた危機管理などに取り組んでまいります。
3. じもとグループは、国連が提唱するSDGsの趣旨に賛同し、持続可能な地域社会の実現に向けて、外部連携も活用しながら、社会的な課題の解決に積極的に取り組んでまいります。

中小企業支援を通じた取引先への取り組み
(金融機関としてなすべきこと)

主要課題への取り組み
(上場企業としてなすべきこと)

取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献
当社グループの収益改善

「共通価値の創造」の実現へ

② サステナビリティ投融資方針

- 当社グループは、「サステナビリティ基本方針」に基づき、取引先や地域社会の持続可能な発展に貢献する投融資業務に取り組むにあたり、「サステナビリティ投融資方針」を制定しております。

サステナビリティ投融資方針

1. 積極的に取り組む企業や事業分野

取引先や地域社会の持続可能な発展にポジティブな影響をもたらす可能性の高い企業や事業活動に対して、継続的かつ積極的に投融資を行い、支援いたします。

- (1) SDGs・ESGの趣旨に沿った経営を志向する企業および事業活動
- (2) 地域企業の創業、イノベーション創出・成長・DX推進に取り組む企業および事業活動
- (3) 再生可能エネルギーや省エネルギーなど気候変動リスクの低減に取り組む企業および事業活動
- (4) 脱プラスチックや森林資源保全など環境問題の解決に取り組む企業および事業活動
- (5) 社会問題の解決に取り組む企業および事業活動

2. ネガティブな影響の低減・回避

取引先や地域社会の持続可能な発展に極めて大きいネガティブな影響をもたらす可能性の高い事業分野に対しては、原則、投融資を行いません。

- (1) 新設の石炭火力発電事業
- (2) 原生林や生態系の破壊など環境への甚大な影響が懸念される森林伐採事業など
- (3) 人権侵害や強制労働が懸念されるパーム油農園開発事業など
- (4) クラスター爆弾製造関連事業などの非人道的事業

3. サステナビリティ関連投融資の実行目標および実績

サステナビリティ関連投融資について、2030年度までに1,000億円の実行を目指します。

実行目標（2030年度末）	累計実績（2024年度）
1,000億円	627億円

③ 中小企業支援を通じたサステナビリティ

- 当社グループは、中小企業支援を通じて、地元中小企業や地域の中長期的な課題の解決に対応。取引先や地域社会の持続的な発展に貢献することで、当社グループの企業価値を向上させてまいります。

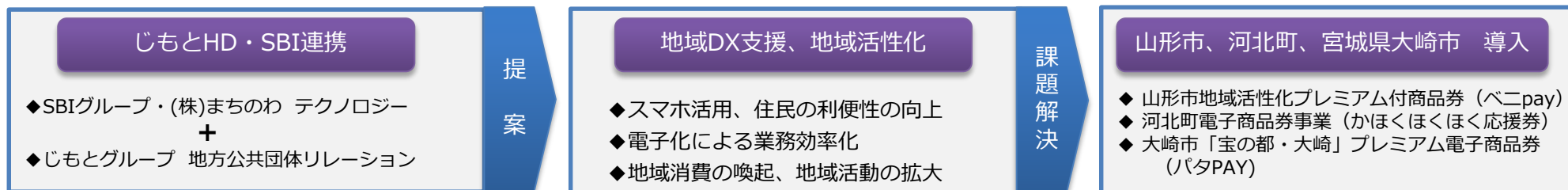
<中小企業や地域の中長期的な課題>



<課題解決への取組み>

ポストコロナ	地域経済の縮小	人口の減少・高齢化	後継者問題
◆取引先への訪問、面談の徹底 ◆スピード重視の資金繰り支援 ◆事業再構築補助金の申請支援	◆県境を越えた新たな商機創出 ◆地公体へ電子地域通貨支援 ◆サステナビリティ関連投融资	◆中小企業のデジタル化支援 ◆企業主導型保育施設の設置 ◆外国人技能実習生の受入れ支援	◆次世代の地域経営者の育成 ◆経営人材の紹介、婚活支援 ◆事業承継・M&A支援

<地公体へ電子通貨支援>



④ 主要課題への取組み

- 当社グループは、上場企業、地域企業として取り組むべき、サステナビリティの5つの課題を設定して取り組んでおります。
- 従業員や取引先など、多様なステークホルダーとの良好な関係を構築することを通じて、持続可能な社会の実現を目指しております。

主要課題 1 気候変動などの地球環境問題

項目	取組み状況
電力消費量削減	【削減実績】 △275千kwh ※2024年3月末対比
照明設備のLED化	【実施率】 77.8%（81カ店のうち63カ店で実施） ※2025年3月末現在
CO2排出量の削減（Scope1,2合算）	【削減率】 △40.0%（2030年度削減目標：2013年度対比△46.0%）
気候変動リスクへの対応	・ TCFD提言への賛同 ・ 気候変動リスクシミュレーターによるシナリオ分析

主要課題 2 人権の尊重

項目	取組み状況
通報相談窓口等の体制整備	・ 内部通報窓口、ハラスメントに係る相談窓口を設置。通報先に外部弁護士を追加。ハラスメント事案の発生防止、早期発見に取り組んでおります。 ・ 従業員の人権、個性を尊重するとともに安全で働きやすい環境を確保するため、「カスタマーハラスメント対応方針」を制定しております。
研修を通じた職員への啓蒙	・ 職場でのハラスメント予防、コンプライアンスの各種研修を実施しております。 【きらやか銀行】 コンプライアンス研修6回／管理職対象研修4回／職場研修6回 【仙台銀行】 管理職対象研修1回／次長課長補佐対象研修1回／職場研修12回 ※期間：2024年4月～2025年3月

④ 主要課題への取組み

主要課題 3 従業員の健康・労働環境への配慮や公正・適切な処遇

項目	取組み状況
健康・労働環境	・ 時間外労働時間の削減、勤務間インターバル制度、有給休暇の取得推進など、ワークライフバランスの実現に向けて勤務時間の適正な運用管理を実施しております。 ・ 健康診断とストレスチェック（各年1回）、産業医・保健師等の相談窓口により、職員の心身の健康管理を実施しております。
公正・適切な処遇	・ 「人材育成方針」に基づき人材育成に取り組むと共に、職員のキャリア形成を後押しするため「人材育成キャリアマップ」を策定しております。 ・ 職員毎の目標管理、能力考課を柱とした人事考課制度を運用しております。 ・ 併せて、職員の自発的な能力開発に向けたサポート体制を整備しております。

主要課題 4 取引先との公正・適正な取引

項目	取組み状況
規程や担当部署等の体制整備	・ コンプライアンスマニュアル、利益相反管理方針等の制定（守秘義務、説明義務・適合性の原則、苦情・相談・トラブルへの対応、善管注意義務と顧客財産保護、顧客との癒着排除等） ・ コンプライアンス委員会でのルール遵守状況チェック、問題事案への対応 ・ 苦情受付窓口の設置
研修を通じた職員への啓蒙	・ コンプライアンスプログラム、コンプライアンス研修の実施

主要課題 5 自然災害等への危機管理

項目	取組み状況
事業継続体制	・ 事業継続計画（地震発生、大規模災害、感染症発生時）を策定し、定期的に災害訓練を実施しています（年2回）。 ・ 営業店への自家発電装置、止水板の設置など、災害に強い設備を整備しています。
災害発生時の業務運営	・ 災害発生時の銀行取引の特例措置への迅速な対応（現金払出し、小切手・手形決済、喪失通帳の再発行、各種手数料の減免等）

⑤ 人事戦略、投資

人材育成の取組み

- 当社グループは、銀行業務の拡大や働き方改革が進展する中、様々な選択肢をもった人事制度を構築し、性別や採用経緯等に関わりなく、多様な人材が活躍し、能力を発揮できるよう人材育成に取り組んでおります。
- 研修受講やSBIグループとの人事交流については、公募制を導入するなど、職員に対して均等な教育機会を提供しております。

人材育成	取組み状況
能力開発	階層別研修、行内FPスクール、業務別研修、行内外トレーニー研修
女性の活躍促進	女性渉外の営業力強化・早期戦力化に向けた研修を両行で共催
外部連携	SBIグループとの人事交流の実施（トレーニー派遣、SBI地域生成AI研究会への参画）

	管理職に占める女性職員割合 (2025年3月31日現在)	正職員に占める 女性職員割合	新規採用職員に占める 女性職員割合
きらやか銀行	10.3 % (13名/126名)	46.1% (297名/643名)	58.8% (10名/17名)
仙台銀行	15.5 % (19名/122名)	47.1% (328名/696名)	46.4% (13名/28名)

目標：15 % 以上 (2026年3月末)

<参考> 当社グループの女性役員は2名（うち社外取締役1名）となっております。
・じもとホールディングス社外取締役監査等委員：1名 ・仙台銀行取締役監査等委員：1名

⑤ 人事戦略、投資

社内環境整備の取組み

- 当社グループは、金融テクノロジーの進展、地域社会の人口減少の加速など、地域金融機関を取り巻く経営環境が大きく変化する中、スピード感をもって業務変革に取り組んでおります。
- これらの環境変化に対応するためには、性別等に関わりなく、働き甲斐と働きやすさ、自己実現ができる環境を整備することが必要であり、当社グループは、「育児や介護との両立支援」や「新たな働き方・人材育成」の環境整備を進めております。

育児・介護の支援	取組み状況
休業制度等	育児休業、介護休業、短時間勤務の支援制度を完備 不妊治療及びがん治療に使用できる「ヘルスサポート休業制度」の導入
社会全体での子育て支援	育児休業の取得を促進（男性職員の取得も推奨）
育児休業者へのフォロー	フォローアップセミナーの開催、職場復帰事前面談・研修の開催
職場への復帰支援	企業主導型保育施設の設置、企業主導型保育事業者との保育園利用提携
勤務エリア	居住地域から通勤可能な範囲での転勤に限定できる勤務エリア選択制度を運用
多様な人材の活躍支援	取組み状況
正社員登用制度	非正規職員から正職員への登用制度を運用
ベテラン職員の活躍支援	定年後もシニア職員として勤務が可能な制度を運用
専門人材の育成	専門性の高い業務に従事するSPコースと営業職に特化するFCコースを設定
若手職員活躍支援	指導員制度による新入行員指導、企業訪問研修「チャレンジダイバーシティ制度」 公募制の外部出向を通じた育成支援、「キャリア形成サポート面談」による若手のキャリア形成支援
キャリア・リターン制度	結婚、出産、育児、介護、転職等で退職した元職員の再雇用制度を運用
旧姓の継続使用	職員の婚姻等による改姓後も旧姓をビジネスネームとして使用可能に

⑤ 人事戦略、投資

ワーク・ライフ・バランス関連指標

	きらやか銀行	仙台銀行
年次有給休暇取得率（2024年度）	59.2%	63.1%
平均残業時間（2024年度／月間）	15.7時間	9.2時間
平均勤続年数（2025年3月末現在）	男性：21.7年 女性：18.3年	男性：16.8年 女性：11.2年
男性の育児休業取得率（2024年度）※	73.3%	114.2%

※男性の育児休業取得率＝年度内に育児休業等を取得した男性労働者の数÷年度内に配偶者が出産した男性労働者の数

知的財産への投資

	主な実施状況
経営支援	- きらやかマネジメントスクール（山形大学等と連携、次世代の地域経営者育成）／累計受講者191名（1～6期） - 仙台銀行ビジネスクラブ次世代経営塾／累計受講者数75名（1～5期）
外部連携	SBIグループとの連携によるDX等の金融テクノロジーの導入、吸収

⑤ 人事戦略、投資

主な表彰・認定実績

きらやか銀行

やまがた子育て・介護応援いきいき企業「優秀（ダイヤモンド）企業」
やまがたスマイル企業「ダイヤモンドスマイル企業」
山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰（2015年度）
均等・両立推進企業部門山形労働局奨励賞（2015年度）
山形県障害者雇用優良事業所表彰
次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
イクボス宣言、やまがたイクボス同盟加盟

仙台銀行

宮城県 女性のチカラを活かす企業認証制度「ゴールド認証企業」
宮城県いきいき男女にこここ子育て応援企業 最優秀企業（2018年度・2024年度）
宮城県・宮城労働局 魅力ある職場づくりモデル企業表彰
次世代育成支援対策推進法に基づく子育てサポート企業「プラチナくるみん認定」
次世代育成支援対策推進法に基づく不妊治療と仕事との両立サポート企業「プラチナくるみんプラス」認定
イクボス宣言、イクボス企業同盟・みやぎイクボス同盟加盟
みやぎ働き方改革実践企業認証
厚生労働大臣女性活躍推進法「えるぼし認定」
仙台市障害者雇用貢献事業者表彰
ベビーファースト運動参画

4. 2025年3月期 グループ決算の状況

① 決算の概要 – 黒字決算に回復、HD連結当期純利益15億円 –

- **経常収益**は、貸出金利息が国内金利の上昇に伴い増加したことなどから、前年同期比+331百万円の**38,274百万円**となりました。
- **経常利益**は、前期にきらやか銀行が計上した多額の与信関係費用や国債等債券償還損などの要因がなくなったことから、前年同期比+24,459百万円の**2,130百万円**となりました。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**は、前年同期比+25,025百万円の**1,563百万円**となり、前期の大幅な赤字決算から黒字決算に回復しました。

(単位：百万円)

	連結（一部2行合算）		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
経常収益	38,274	331	17,083	△188	15,815	696
業務粗利益	25,826	7,728	13,762	7,592	11,896	150
資金利益	23,127	△52	11,704	△168	11,440	78
役務取引等利益	2,745	△484	1,963	△270	598	△167
その他業務利益	△45	8,265	94	8,031	△142	239
うち国債等債券損益 ※	△181	8,409	△31	8,138	△150	270
経費（△）	21,989	△268	10,924	△562	10,249	36
コア業務純益 ※	4,667	△140	2,870	15	1,797	△156
コア業務純益（除く投資信託解約損益） ※	4,650	△28	2,870	90	1,780	△118
与信関係費用（△） ※	2,112	△16,587	1,609	△16,895	503	308
株式等関係損益	△261	△996	△428	△704	206	△240
経常利益	2,130	24,459	399	24,178	1,458	△235
特別損益	△144	948	△15	987	△189	△116
法人税等合計	450	414	△116	236	382	△69
親会社株主に帰属する当期純利益	1,563	25,025	500	24,928	885	△282

※きらやか銀行、仙台銀行の2行合算計数です。

② 資金利益 – 国内金利が上昇し、貸出金利息・預金利息が増加 –

■**貸出金利息**は、国内金利上昇の影響により、**前年同期比+12.2億円の235.7億円**となりました。

きらやか銀行は、中小企業向け貸出が減少しましたが、消費者ローンが増加したことから、前年同期比+4.0億円の117.8億円となりました。
 仙台銀行は、住宅ローンや中小企業向け貸出が増加したことから、前年同期比+8.1億円の117.9億円となりました。

■**有価証券利息配当金**は、両行が引き続き有価証券評価損の抑制を優先したことから、投資信託分配金が減少し、**前年同期比△0.3億円の7.4億円**となりました。

■**預金利息**は、国内金利上昇の影響により、**前年同期比+13.7億円の15.7億円**となりました。

(単位：億円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
資金利益	231.4	△0.9	117.0	△1.6	114.4	0.7
貸出金利息	235.7	12.2	117.8	4.0	117.9	8.1
有価証券利息配当金	7.4	△0.3	3.9	△1.1	3.5	0.7
預金利息 ※	15.7	13.7	7.4	6.0	8.2	7.7
平均残高						
貸出金平均残高	19,091	218	9,620	△86	9,471	304
有価証券平均残高	3,797	△1,425	1,107	△1,230	2,689	△194
預金平均残高 ※	23,801	△838	11,491	△831	12,309	△7
利回り						
貸出金利回	1.24	0.05	1.23	0.05	1.24	0.05
有価証券利回	0.19	0.04	0.35	0.14	0.13	0.04
預金利回 ※	0.06	0.06	0.06	0.05	0.06	0.06

※預金には、譲渡性預金も含まれます。

③ 貸出金・預金 – オーダーメイドの中小企業融資、住宅ローンに対応 –

- 貸出金残高**は、地元中小企業のニーズに応じたオーダーメイド融資、仙台地区を中心とした住宅ローン需要へ対応し、前年同月末比+69億円の**1兆9,257億円**となりました。
- きらやか銀行**は、消費者ローンが増加しましたが、中小企業向け貸出が減少したことなどから、前年同月比△208億円の9,620億円となりました。
 仙台銀行は、中小企業向け貸出が増加したほか、住宅ローン需要に積極的に対応したことにより、過去最高の9,636億円となりました。
- 預金残高**は、前年同月末比△1,673億円の**2兆2,856億円**となりました。

(単位：億円)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比
貸出金残高	19,257	69	9,620	△208	9,636	277
中小企業向け貸出	10,808	△124	5,797	△212	5,011	87
消費者ローン	6,568	454	2,675	173	3,893	281
うち住宅ローン	5,854	242	2,261	△24	3,593	267
地方公共団体向け貸出	836	△86	276	△26	559	△59
預金残高（譲渡性預金含む）	22,856	△1,673	10,974	△1,326	11,881	△347
個人預金	14,778	△821	7,385	△727	7,393	△93
法人預金	6,227	△555	3,461	△565	2,765	10
公金預金	1,768	△341	113	△31	1,654	△309

④ 有価証券 – 国内金利上昇に伴い運用額を増加 –

- **有価証券残高**は、きらやか銀行において、前年度に有価証券の一部を売却しましたが、国内金利の上昇を受けて再運用を行ったことから、前年同月末比＋158億円の**3,667億円**となりました。
- **その他有価証券の評価損益**は、国内金利上昇の影響を受けたことなどにより、前年同月末比△29億円の△**253億円**となりました。
引き続き、SBIグループと連携し、運用によって生み出される利益を充当することなどにより、評価損の中長期的な解消に取り組んでまいります。

(単位：億円)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比
有価証券残高	3,667	158	1,108	171	2,558	△13
国債	290	238	200	200	89	37
地方債	357	△5	－	－	357	△5
社債	517	△14	163	△14	354	0
株式	107	14	62	△3	44	17
その他証券（海外債券：国債・地方債等）	2,395	△74	681	△10	1,713	△64
その他有価証券の評価損益	△253	△29	△105	△9	△147	△20
株式	6	△2	1	△0	4	△1
債券	△15	△10	△2	△1	△13	△8
その他	△244	△17	△105	△6	△139	△10

⑤ 役務取引等利益 – 住宅ローン団信保険料・個人ローン保証料が増加 –

- 2行合算の役務取引等利益は、住宅ローン・個人ローン増加による団信保険料、保証料などの役務取引等費用の増加により、前年同期比△437百万円の**2,562百万円**となりました。
- 預かり資産手数料は、生命保険販売手数料、投資信託販売手数料、SBIマネープラザ手数料がそれぞれ減少となりました。
- 法人向け手数料は、きらやか銀行の企業向け定額サービス（福利厚生）の見直しなどにより、関連手数料が減少しています。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
役務取引等利益	2,562	△437	1,963	△270	598	△167
役務取引等収益	6,338	△195	3,249	△211	3,088	15
受入為替手数料	1,384	△15	745	△24	639	9
預かり資産手数料	1,494	△111	582	△98	911	△13
（うち 投資信託販売手数料）	142	△23	42	△25	100	1
（うち SBIマネープラザ手数料）	146	△12	69	△1	77	△11
（うち 生命保険販売手数料）	1,116	△77	471	△72	645	△5
法人向け手数料	689	△124	376	△112	313	△11
（うち 私募債発行手数料）	114	△9	74	△17	39	8
（うち 業務提携手数料）	190	△12	38	△17	151	4
（うち 定額サービス手数料）	319	△73	263	△77	55	3
その他	2,769	55	1,545	24	1,224	31
役務取引等費用	3,775	241	1,286	58	2,489	183
支払為替手数料	350	7	247	4	103	2
個人ローン保証料	1,633	91	374	29	1,259	62
その他（住宅ローン団体生命保険料等）	1,791	143	664	24	1,126	118

⑥ 経費、経営効率化 – 「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」 –

- 当社グループは、経営効率化に向けて「店舗戦略」「業務効率化・DX」「人員戦略」を一体で推進しております。2行合算の経費は、前年同期比△526百万円の21,173百万円となりました。
- 「店舗戦略」については、両行が店舗内店舗方式（ブランチ・イン・ブランチ）による統廃合を進めており、両行合算の実質店舗数は、前年同期比△5カ店の82カ店となっております。
- 「人員戦略」については、「店舗戦略」や「業務効率化・DX」による創出人員を営業担当へ再配置しております。一方で、全体の人員数は両行合算で前年同期比△39名となりました。これにより人件費は、前年同期比△205百万円となっております。
- コアOHRは、前年同期比0.07ポイント上昇し、81.93%となりました。

（単位：百万円、店舗、人、%）

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
経費	21,173	△526	10,924	△562	10,249	36
人件費	10,025	△205	5,115	△179	4,909	△26
物件費	9,447	△85	4,942	△237	4,504	152
税金	1,701	△236	866	△145	835	△90
店舗数 (ブランチ・イン・ブランチ形式での実質店舗数)	82	△5	36	△4	46	△1
人員数	1,303	△39	646	△28	657	△11
コアOHR	81.93	0.07	79.19	△0.90	85.08	1.14

⑦ 与信関係費用、金融再生法開示債権 – 与信関係費用が大幅減少 –

■与信関係費用は、前期にきらやか銀行は、取引先の状況を踏まえ多額の貸倒引当金を計上しました。当期は引当金計上が大幅に減少したため、2行合算で前年同期比△16,587百万円の**2,112百万円**となりました。

■金融再生法開示債権残高は、前年同期比△8,174百万円の**90,414百万円**。不良債権比率は、**4.61%**となりました。

(単位：百万円、%)

	2行合算		きらやか銀行		仙台銀行	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
与信関係費用	2,112	△16,587	1,609	△16,895	503	308
うち一般貸倒引当金繰入額	△302	△2,559	△329	△2,586	27	27
うち個別貸倒引当金繰入額	1,723	△13,398	1,411	△13,710	311	311
うち貸倒引当金戻入益	–	△21	–	–	–	△21
金融再生法開示債権残高	90,414	△8,174	57,430	△9,099	32,984	925
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	17,798	△4,157	15,494	△4,332	2,303	175
危険債権	69,012	△3,922	41,545	△4,767	27,466	844
要管理債権	3,603	△94	389	–	3,213	△94
不良債権比率	4.61	△0.43	5.82	△0.76	3.38	△0.00

	2行合算			きらやか銀行			仙台銀行		
	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率	債権額	保全額	保全率
金融再生法開示債権の保全	90,414	80,533	89.07	57,430	49,582	86.33	32,984	30,950	93.83
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	17,798	17,798	100.00	15,494	15,494	100.00	2,303	2,303	100.00
危険債権	69,012	60,607	87.82	41,545	33,974	81.77	27,466	26,633	96.96
要管理債権	3,603	2,127	59.04	389	113	29.22	3,213	2,013	62.66

⑧ 自己資本比率、ROE – 連結自己資本比率 8.04% –

- 自己資本の額は、両行の当期純利益の計上により、前年同月比+16億円の1,078億円となりました。
- リスク・アセット等は、バーゼルⅢ最終化に伴い計測手法を見直したことや、きらやか銀行の貸出金が減少したことなどにより、前年同月比△518億円の13,406億円となりました。
- 以上により、**連結自己資本比率**は、前年同月末比0.42ポイント上昇し**8.04%**となりました。
- ROE**は、黒字決算に回復したことにより、当期純利益ベースで前年同期比+25.24ポイントの**1.38%**となりました。

(単位：百万円、%)

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比	2025年3月末	前年同月末比
自己資本	107,846	1,696	54,727	636	54,003	941
リスク・アセット等	1,340,674	△51,846	643,923	△55,111	691,435	3,090
自己資本比率	8.04	0.42	8.49	0.76	7.81	0.11

(単位：%)

	2行合算		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比	2025年3月期	前年同期比
ROE（業務純益ベース）	4.77	10.96	7.12	24.77	2.90	0.10
ROE（当期純利益ベース）	1.38	25.24	1.12	58.05	1.58	△0.55

⑨ 中期経営計画目標と実績 – 公的資金返済に向けて剰余金を積上げ –

- 当社グループの中期経営計画（2024年4月～2027年3月）の初年度の実績は、国内金利上昇の影響により預金利息が増加したものの、貸出金利息の増加や経費の削減、与信関係費用の減少などにより、経常利益21億円、当期純利益15億円と計数目標を達成しました。
- 今後も引続き、本計画を着実に実行することにより、公的資金返済に向けた剰余金の積上げに取り組んでまいります。

（単位：億円、％）

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績	2025年3月期 計画	2025年3月期 実績
コア業務純益（2行合算）	37	46	20	28	17	17
経常利益	17	21	2	3	13	14
親会社株主に帰属する当期純利益	11	15	1	5	8	8
貸出金平残（2行合算）	19,173	19,091	9,691	9,620	9,482	9,471
預金平残（2行合算）	23,640	23,801	11,200	11,491	12,440	12,309
ROE（2行合算）※1	1.0	1.3	0.3	1.1	1.5	1.5
自己資本比率	7.4程度	8.04	7.7程度	8.49	7.6程度	7.81
コアOHR（2行合算）	85.3	81.9	84.9	79.1	85.7	85.0
顧客向けサービス業務利益（2行合算）※2	32	40	15	23	17	16

※1 ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本（普通株 + 優先株）

※2 顧客向けサービス業務利益 = 貸出金残高 × 預貸金利回差 + 役務取引等利益 - 営業経費

⑩ 2026年3月期 業績予想と配当予想

■連結業績予想（2026年3月期）は、経常利益22億円、親会社株主に帰属する当期純利益17億円を見込んでおります。

■年間配当金（2026年3月期）は、普通株式1株あたり5円00銭を予定しております。

当社が国の公的資金を受入れるにあたり発行している優先株式の配当予想は、所定の配当金を全額配当することを予定しております。
年間配当水準は当社連結の通期業績予想に連動して予想しますことから、中間配当を見送り、期末配当に一本化する予定でございます。

<業績予想>

（単位：百万円）

	連結		きらやか銀行（単体）		仙台銀行（単体）	
	2026年3月期 予想	2025年3月期 実績（参考）	2026年3月期 予想	2025年3月期 実績（参考）	2026年3月期 予想	2025年3月期 実績（参考）
経常利益	2,200	2,130	700	399	1,300	1,458
親会社株主に帰属する当期純利益	1,700	1,563	500	500	1,100	885

<普通株式・配当予想>

（単位：円、1株あたり）

	中間	期末	年間
2026年3月期	0円00銭	5円00銭	5円00銭
2025年3月期（参考）	0円00銭	5円00銭	5円00銭

本資料には、将来の業績に関わる記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比で異なる可能性があることにご留意ください。

《当資料に関するお問い合わせ先》

株式会社 じもとホールディングス
総 合 企 画 部

TEL : 022-722-0011 (代表)
<https://www.jimoto-hd.co.jp>